



平成28年5月13日

各 位

上場会社名 ミナトホールディングス株式会社
 代表者 代表取締役社長執行役員 若山 健彦
 (コード番号 6862)
 問合せ先責任者 取締役執行役員経営企画部門長 伊藤 信雄
 (TEL 045-591-5611)

業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

平成27年5月14日に公表した業績予想と本日公表の実績値との差異について、下記の通りお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成28年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,343	17	8	1	0.04
今回修正予想(B)	2,114	△6	△45	△70	△2.84
増減額(B-A)	△228	△23	△53	△71	
増減率(%)	△9.7	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成27年3月期)	2,278	△71	△90	△110	△4.86

修正の理由

デバイス関連事業につきましては、デバイスプログラマ本体の売上高が前年を下回る結果となりましたが、一方で産業機器メーカーに納入したオートハンドラ関連の設備増設に伴うリピータ受注製品及びそれらに伴う変換アダプタやプログラマ用書き込み特注ソフトの売上が増加しております。またROM書き込みサービスでは、スマートメーター及び車載メーカー関連の書き込みも増加しており、同サービスの売上高は前連結会計年度と比べ27.2%増となりました。タッチパネル関連事業のうち、中型タッチパネルについては、ほぼ計画通りの売上高となりましたが、不振傾向にある国内アミューズメントマーケット向けにおいては、計画を下回る売上高となりました。一方で、デジタルサイネージ分野においては、外食産業への配信システム導入が予想を大きく上回るペースで進み好調に推移したものの、前連結会計年度に受注した大型特注案件はありませんでした。システム開発関連事業では、電力自由化に関わるシステム対応や大手金融機関によるシステム構築案件などの増加が引き続き見込まれ、堅調に推移しております。

以上の結果、当社グループの当連結会計年度の業績は、売上高2,114百万円(当初予想との差異△228百万円)、M&A関連費用13百万円の計上などもあり営業損失6百万円(当初予想との差異△23百万円)、経常損失45百万円(当初予想との差異△53百万円)、また特別損失に訴訟関連損失12百万円を計上したこと等により、親会社株主に帰属する当期純損失70百万円(当初予想との差異△71百万円)となりました。

以 上